

## 昭和大学医学部(Ⅱ期) 数学

2020年3月10日実施

1 次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。 $i$  は虚数単位とする。

(1)  $xyz$  空間において、原点  $O$  を中心とする半径 1 の球面  $S: x^2 + y^2 + z^2 = 1$ 、および  $S$  上の点  $A(0, 0, 1)$  を考える。 $S$  上の  $A$  と異なる点  $P(x_0, y_0, z_0)$  に対して、2 点  $A, P$  を通る直線と  $xy$  平面の交点を  $Q$  とする。次の問いに答えよ。

(1-1)  $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP}$  ( $t$  は実数) とおくと、 $\overrightarrow{OQ}$  を  $\overrightarrow{OP}$ ,  $\overrightarrow{OA}$  および  $t$  を用いて表せ。

(1-2)  $\overrightarrow{OQ}$  の成分表示を  $x_0, y_0, z_0$  を用いて表せ。

(1-3) 球面  $S$  と平面  $x = \frac{1}{2}$  の共通部分が表す図形を  $C$  とする。点  $P$  が  $C$  上を動くとき、 $xy$  平面における点  $Q$  の軌跡を求めよ。

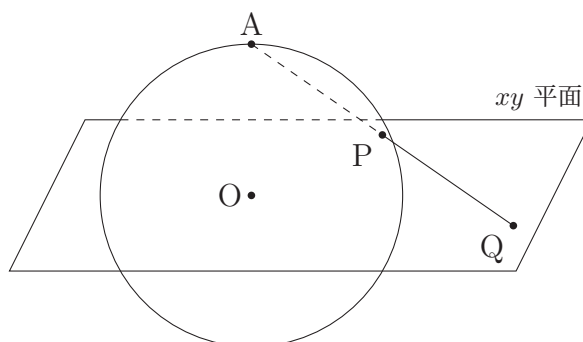
(2)  $xy$  平面において、点  $A(a, 0)$  を中心とする半径  $r$  の円を  $C$  とする。ただし、 $0 < r \leq a$  とする。円  $C$  の周上に、 $y$  座標が正である点  $P$  と、点  $E(a+r, 0)$  をとる。さらに、点  $P$  における円  $C$  の接線と  $y$  軸との交点を  $Q$ 、2 点  $E, P$  を通る直線と  $y$  軸との交点を  $R$ 、 $\angle AEP$  を  $\theta$  とする。このとき、3 点  $P, Q, R$  を頂点とする  $\triangle PQR$  について、次の問いに答えよ。

(2-1)  $QP:QR$  の比を求めよ。また、 $\triangle PQR$  が正三角形となる場合の  $\theta$  の値を求めよ。

(2-2)  $\triangle PQR$  が正三角形となり、さらに頂点の 1 つが原点と一致する場合の、 $a$  と  $r$  の関係式を求めよ。

### 解答

(1)



(1-1)  $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP} \iff \overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OP}$ .

(1-2) 点  $Q$  を  $(x, y, z)$  とおくと、(1-1) より

$$\begin{aligned} (x, y, z) &= (1-t)(0, 0, 1) + t(x_0, y_0, z_0) \\ &= (tx_0, ty_0, 1-t+tz_0) \end{aligned}$$

点  $Q$  は  $xy$  平面上の点なので、 $z = 0$  より、

$$1 - (1 - z_0)t = 0.$$

また、点  $P$  は球面  $S$  上にあり、 $A$  と異なるので  $-1 \leq z_0 < 1$  を満たす。したがって、 $t = \frac{1}{1 - z_0}$ .

このとき、 $x = tx_0 = \frac{x_0}{1 - z_0}$ 、 $y = ty_0 = \frac{y_0}{1 - z_0}$  となるので、

$$\vec{OQ} = \left( \frac{x_0}{1 - z_0}, \frac{y_0}{1 - z_0}, \mathbf{0} \right).$$

(1-3) 点  $P(x_0, y_0, z_0)$  が円  $C$  を動くとき、次の式を満たす。

$$x_0^2 + y_0^2 + z_0^2 = 1, \quad x_0 = \frac{1}{2}.$$

すなわち、

$$y_0^2 + z_0^2 = \frac{3}{4}, \quad x_0 = \frac{1}{2}. \quad \dots\dots ①$$

ここで、 $Q(x, y, 0)$  とおくと、(1-2) より、

$$x = \frac{x_0}{1 - z_0} = \frac{1}{2(1 - z_0)}.$$

明らかに  $x \neq 0$  であり、

$$1 - z_0 = \frac{1}{2x} \iff z_0 = 1 - \frac{1}{2x}. \quad \dots\dots ②$$

同様に

$$y = \frac{y_0}{1 - z_0} \iff y_0 = y(1 - z_0) = \frac{y}{2x}. \quad \dots\dots ③$$

②, ③ を ① に代入すると、

$$\left( \frac{y}{2x} \right)^2 + \left( 1 - \frac{1}{2x} \right)^2 = \frac{3}{4}.$$

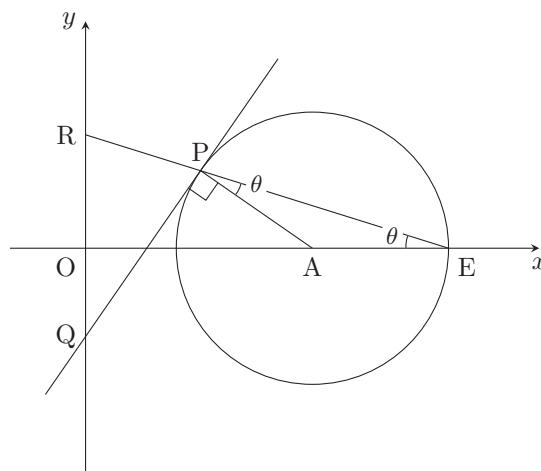
これを整理すると、

$$(x - 2)^2 + y^2 = 3$$

したがって、点  $Q$  の軌跡は、円  $(x - 2)^2 + y^2 = 3$  ( $z = 0$ ).

注：本問では「 $xy$  平面における軌跡を求めよ」と問われているので、 $z = 0$  は不問だろう。

(2)



(2-1)  $\triangle AEP$  は二等辺三角形より、 $\angle AEP = \angle APE = \theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とおける。

$\angle APQ = \frac{\pi}{2}$  であるから、

$$\angle QPR = \pi - (\angle APQ + \angle APE) = \frac{\pi}{2} - \theta.$$

また、 $\triangle OER$  は  $\angle EOR = \frac{\pi}{2}$  を満たす直角三角形だから、

$$\angle ORE = \pi - \left( \frac{\pi}{2} + \angle OER \right) = \frac{\pi}{2} - \theta.$$

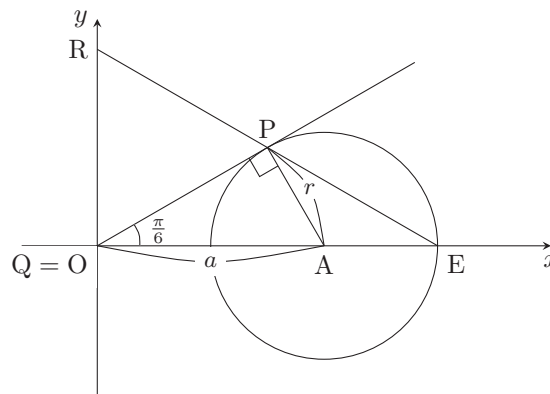
したがって、 $\triangle QPR$  は  $QP = QR$  を満たす二等辺三角形である。ゆえに

$$QP : QR = 1 : 1.$$

また、 $\triangle PQR$  が正三角形となるとき、

$$\angle QPR = \frac{\pi}{2} - \theta = \frac{\pi}{3} \iff \theta = \frac{\pi}{6}.$$

(2-2) 点  $P$  の  $y$  座標は正であるから、点  $Q$  は  $y > 0$  を満たす。したがって、条件のように原点と一致する点は、 $Q = O$  のとき、図は以下のようになる。



$\triangle OPA$  に注目すると、

$$\angle POE = \frac{\pi}{2} - \angle POR = \frac{\pi}{6}.$$

であるから、 $\angle AOP = \frac{\pi}{6}$ ,  $\angle OAP = \frac{\pi}{3}$ ,  $\angle OPA = \frac{\pi}{2}$  の直角三角形である。

よって、 $OA = a$ ,  $AP = r$  より  $a = 2r$ .

2 次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1) 方程式  $4x^4 - 8x^3 + 11x^2 - 8x + 4 = 0$  を解け。  
 (2)  $x^{2020} + x + 1$  を  $x^2 + x + 1$  で割ったときの余りを求めよ。  
 (3) 3次方程式  $x^3 - x^2 - x - 1 = 0$  の3つの解を  $\alpha, \beta, \gamma$  とする。  $\frac{1}{(\alpha-2)(\beta-2)}, \frac{1}{(\beta-2)(\gamma-2)}, \frac{1}{(\gamma-2)(\alpha-2)}$  を解とする3次方程式を求めよ。ただし、 $x^3$  の係数は1とする。

**解答**

(1)  $4x^4 - 8x^3 + 11x^2 - 8x + 4 = 0 \dots\dots ①$

① に  $x = 0$  を代入しても式は成り立たないので、① は  $x = 0$  を解に持たない。両辺を  $x^2 (\neq 0)$  で割ると、

$$4x^2 - 8x + 11 - \frac{8}{x} + \frac{4}{x^2} = 0$$

$$\iff 4\left(x^2 + \frac{1}{x^2}\right) - 8\left(x + \frac{1}{x}\right) + 11 = 0$$

$$\iff 4\left\{\left(x + \frac{1}{x}\right)^2 - 2\right\} - 8\left(x + \frac{1}{x}\right) + 11 = 0. \dots\dots ②$$

$x + \frac{1}{x} = t$  とおけば、② は  $4(t^2 - 2) - 8t + 11 = 0$  となる。

$$4(t^2 - 2) - 8t + 11 = 0 \iff 4t^2 - 8t + 3 = 0 \iff (2t - 3)(2t - 1) = 0.$$

したがって、① の解は、

$$x + \frac{1}{x} = \frac{3}{2} \text{ または } x + \frac{1}{x} = \frac{1}{2}$$

の解である。

$$x + \frac{1}{x} = \frac{3}{2} \iff 2x^2 - 3x + 2 = 0 \iff x = \frac{3 \pm \sqrt{7}i}{4}$$

$$x + \frac{1}{x} = \frac{1}{2} \iff 2x^2 - x + 2 = 0 \iff x = \frac{1 \pm \sqrt{15}i}{4}$$

したがって ① の4つの解は、 $x = \frac{3 \pm \sqrt{7}i}{4}, \frac{1 \pm \sqrt{15}i}{4}$ 。

**【参考】**

$x^2$  で割らずに、そのまま因数分解してもよい。

$$4x^4 - 8x^3 + 11x^2 - 8x + 4 = 0$$

$$\iff 4(x^4 + 1) - 8(x^3 + x) + 11x^2 = 0$$

$$\iff 4\{(x^2 + 1)^2 - 2x^2\} - 8x(x^2 + 1) + 11x^2 = 0$$

$$\iff 4(x^2 + 1)^2 - 8x(x^2 + 1) + 3x^2 = 0$$

$$\iff \{2(x^2 + 1) - 3x\}\{2(x^2 + 1) - x\} = 0$$

$$\iff (2x^2 - 3x + 2)(2x^2 - x + 2) = 0$$

ゆえに、 $2x^2 - 3x + 2 = 0$  または  $2x^2 - x + 2 = 0$  の解を求めればよい。

(2)  $f(x) = x^{2020} + x + 1$  とおく. また,  $x^2 + x + 1 = 0$  の解の 1 つを  $x = \omega$  とおくと,

$$\omega^2 + \omega + 1 = 0, \quad \omega^3 = 1$$

を満たす. ここで,  $f(\omega)$  の値を求めると,

$$\begin{aligned} f(\omega) &= \omega^{2020} + \omega + 1 \\ &= (\omega^3)^{673} \cdot \omega + \omega + 1 \\ &= 2\omega + 1 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

また,  $x$  の整式  $f(x)$  を  $x^2 + x + 1$  で割ったときの商を  $Q(x)$ , 余りを  $px + q$  ( $p, q$  は実数) とおくと,

$$f(x) = (x^2 + x + 1)Q(x) + px + q.$$

ここで,  $\omega^2 + \omega + 1 = 0$  を用いると,

$$f(\omega) = (\omega^2 + \omega + 1)Q(\omega) + p\omega + q = p\omega + q. \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

①, ② より,

$$p\omega + q = 2\omega + 1 \iff (p - 2)\omega = 1 - q. \quad \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$p \neq 2$  と仮定すると, ③ より  $\omega = \frac{1 - q}{p - 2}$  となるが,  $\omega$  は虚数 (非実数) であり,  $p, q$  は実数なので, この等式は成り立たない.

したがって,  $p = 2$  であり, このとき ③ より  $q = 1$ . したがって  $f(x)$  を  $x^2 + x + 1$  で割った余りは  $2x + 1$ .

(3) 3 次方程式  $x^3 - x^2 - x - 1 = 0 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$  の 3 つの解が  $\alpha, \beta, \gamma$  であるから,  $x$  についての恒等式

$$x^3 - x^2 - x - 1 = (x - \alpha)(x - \beta)(x - \gamma) \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

を得る. ② に  $x = 2$  を代入すると,

$$\begin{aligned} 2^3 - 2^2 - 2 - 1 &= (2 - \alpha)(2 - \beta)(2 - \gamma) \\ \iff (2 - \alpha)(2 - \beta)(2 - \gamma) &= 1 \quad \dots\dots\dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

① は  $x = 2$  を解に持たないので,  $\alpha - 2 \neq 0, \beta - 2 \neq 0, \gamma - 2 \neq 0$  であり, ③ から

$$\frac{1}{(2 - \alpha)(2 - \beta)} = 2 - \gamma, \quad \frac{1}{(2 - \beta)(2 - \gamma)} = 2 - \alpha, \quad \frac{1}{(2 - \gamma)(2 - \alpha)} = 2 - \beta.$$

つまり,  $x = 2 - \alpha, 2 - \beta, 2 - \gamma$  を解に持ち  $x^3$  の係数が 1 であるような 3 次方程式を求めればよい.  $\dots$  (\*)  
方程式 ① において, 解と係数の関係から,

$$\alpha + \beta + \gamma = 1, \quad \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = -1, \quad \alpha\beta\gamma = 1.$$

また, 求める 3 次方程式は,

$$\begin{aligned} \{x - (2 - \alpha)\}\{x - (2 - \beta)\}\{x - (2 - \gamma)\} &= 0 \\ \iff x^3 - \{(2 - \alpha) + (2 - \beta) + (2 - \gamma)\}x^2 \\ &+ \{(2 - \alpha)(2 - \beta) + (2 - \beta)(2 - \gamma) + (2 - \gamma)(2 - \alpha)\}x - (2 - \alpha)(2 - \beta)(2 - \gamma) = 0. \quad \dots\dots\dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

ここで,

$$\begin{aligned}(2 - \alpha) + (2 - \beta) + (2 - \gamma) &= 6 - (\alpha + \beta + \gamma) \\ &= 5\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}(2 - \alpha)(2 - \beta) + (2 - \beta)(2 - \gamma) + (2 - \gamma)(2 - \alpha) &= 12 - 4(\alpha + \beta + \gamma) + (\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha) \\ &= 12 - 4 + (-1) \\ &= 7\end{aligned}$$

$$(2 - \alpha)(2 - \beta)(2 - \gamma) = 1$$

であるから, ④ より求める方程式は,  $x^3 - 5x^2 + 7x - 1 = 0$ .

**(\*) 以降の別解**

① が  $x = \alpha, \beta, \gamma$  を解に持つとき,  $X = 2 - \alpha, 2 - \beta, 2 - \gamma$  を解に持つ方程式を作る. このとき,  $x = 2 - X$  を ① に代入すると

$$\begin{aligned}(2 - X)^3 - (2 - X)^2 - (2 - X) - 1 &= 0 \\ \iff X^3 - 5X^2 - 7X - 1 &= 0.\end{aligned}$$

これは,  $X = 2 - \alpha, 2 - \beta, 2 - \gamma$ , すなわち,  $\frac{1}{(\alpha - 2)(\beta - 2)}, \frac{1}{(\beta - 2)(\gamma - 2)}, \frac{1}{(\gamma - 2)(\alpha - 2)}$  を解に持つ方程式である. したがって, 求める方程式は  $x^3 - 5x^2 + 7x - 1 = 0$ .

3 次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1)  $\sin^3 \theta + \cos^3 \theta = \frac{11}{16}$  ( $90^\circ < \theta < 180^\circ$ ) のとき、 $\sin \theta$  および  $\cos \theta$  の値を求めよ。
- (2) 座標平面上に 2 点  $A(-2, 0)$ ,  $B(2, 0)$  がある。円  $(x-4)^2 + (y-3)^2 = 4$  上に点  $P$  をとって、 $\overline{AP^2} + \overline{BP^2}$  を最小にするような点  $P$  の座標を求めよ。
- (3) 1 から 55 までの整数のどれか 1 つを同じ大きさのカードに書いて、1 を書いたカードに 1 枚、2 を書いたカードを 2 枚、以下同様に 55 を書いたカードを 55 枚作り、これらを箱に入れる。箱の中をよく混ぜてから 1 枚のカードを取り出し、それに書いてある数を  $X$  とする。
- (3-1)  $X = 28$  となる確率を求めよ。
- (3-2)  $X$  の期待値 (平均値) を求めよ。

**解答**

(1) 与式により

$$(\sin \theta + \cos \theta)(\sin^2 \theta - \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta) = \frac{11}{16}$$

$\sin \theta + \cos \theta = t$  とおくと、 $\sin \theta \cos \theta = \frac{t^2 - 1}{2}$  なので

$$\begin{aligned} t \left( 1 - \frac{t^2 - 1}{2} \right) &= \frac{11}{16} \iff 8t^2 - 24t + 11 = 0 \\ &\iff (2t - 1)(4t^2 + 2t - 11) = 0 \\ &\iff t = \frac{1}{2}, \frac{-1 \pm 3\sqrt{5}}{4} \end{aligned}$$

$t = \sin \theta + \cos \theta = \sqrt{2} \sin(\theta + 45^\circ)$ ,  $90^\circ < \theta < 180^\circ$  より、 $-1 < t < 1$  なので、 $t = \frac{1}{2}$ 。

したがって、 $\sin \theta + \cos \theta = \frac{1}{2}$ ,  $\sin \theta \cos \theta = -\frac{3}{8}$  となるので、 $\sin \theta$ ,  $\cos \theta$  は  $s$  の 2 次方程式

$$s^2 - \frac{1}{2}s - \frac{3}{8} = 0 \iff 8s^2 - 4s - 3 = 0$$

の 2 つの実数解である。

よって、 $s = \frac{1 \pm \sqrt{7}}{4}$  より、 $90^\circ < \theta < 180^\circ$  と併せて  $\sin \theta = \frac{1 + \sqrt{7}}{4}$ ,  $\cos \theta = \frac{1 - \sqrt{7}}{4}$ 。

(2) 中線定理より

$$\overline{AP^2} + \overline{BP^2} = 2(\overline{OA^2} + \overline{OP^2}) = 2(4 + \overline{OP^2}).$$

したがって、 $\overline{OP}$  が最小値となる点  $P$  の座標を考えればよい。

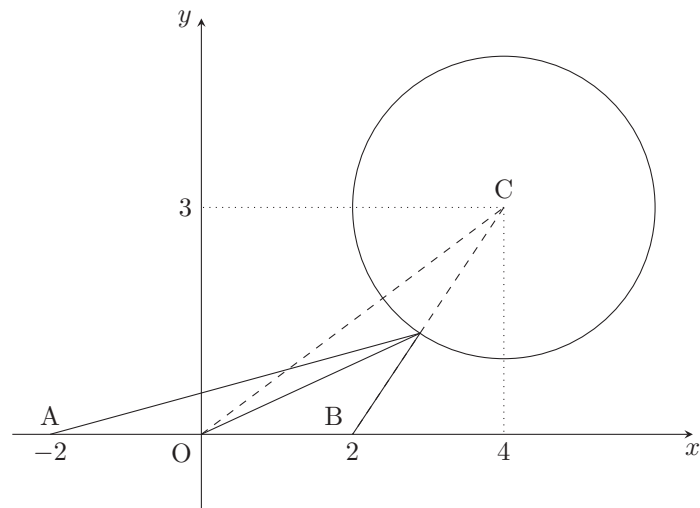
円の中心を  $C$  とすると

$$\overline{OP} \geq \overline{OC} - \overline{CP} = 5 - 2 = 3$$

となるので、 $\overline{OP} = 3$ , すなわち  $O, P, C$  がこの順に一直線上に並ぶとき、 $\overline{OP}$  は最小となる。

よって、このとき

$$\overrightarrow{OP} = \frac{3}{5} \overrightarrow{OC} = \left( \frac{12}{5}, \frac{9}{5} \right) \therefore P \left( \frac{12}{5}, \frac{9}{5} \right).$$



【参考】

円上の点 P を  $x = 4 + 2 \cos \theta$ ,  $y = 3 + 2 \sin \theta$  ( $0 \leq \theta < 2\pi$ ) と媒介変数表示して,  $\overline{AP^2} + \overline{BP^2}$  を  $\theta$  の関数として扱ってもよい.

(3)

(3-1) カードの枚数は全部で

$$1 + 2 + 3 + \dots + 55 = \frac{55(55 + 1)}{2}$$

枚であり, 28 と書かれたカードは 28 枚あるので, 求める確率  $P(X = 28)$  は,

$$P(X = 28) = \frac{28}{\frac{55(1 + 55)}{2}} = \frac{1}{55}.$$

(3-2)  $X = k$  ( $k = 1, 2, \dots, 55$ ) となる確率  $P(X = k)$  は,

$$\begin{aligned} P(X = k) &= \frac{k}{1 + 2 + \dots + 55} \\ &= \frac{k}{\frac{55(1 + 55)}{2}} \\ &= \frac{k}{55 \cdot 28} \end{aligned}$$

よって, 求める  $X$  の期待値  $E(X)$  は

$$\begin{aligned} E(X) &= \sum_{k=1}^{55} k \cdot P(X = k) \\ &= \sum_{k=1}^{55} k \cdot \frac{k}{55 \cdot 28} \\ &= \frac{1}{55 \cdot 28} \sum_{k=1}^{55} k^2 \\ &= \frac{1}{55 \cdot 28} \cdot \frac{55 \cdot 56 \cdot 111}{6} \\ &= \frac{111}{3} \\ &= 37. \end{aligned}$$



4 次の各問いに答えよ。ただし、(1)、(2) は結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1)  $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 5x}{1 - \cos x}$  を求めよ。  
 (2) 半径 3 の球に内接する直円柱の体積の最大値を求めよ。  
 (3)  $xy$  平面上で  $x \geq 0, y \leq 0$  のとき

$$\int_y^x (1 - |t|) dt \geq 0$$

を満たす点  $(x, y)$  の存在する部分を図示せよ。

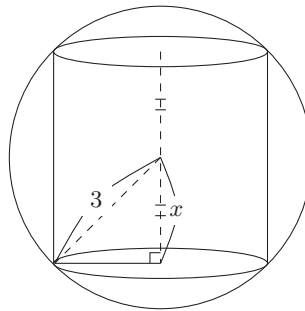
**解答**

(1)

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 5x}{1 - \cos x} &= \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\frac{\sin^2 5x}{x^2}}{\frac{1 - \cos x}{x^2}} \\ &= \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\left(\frac{\sin 5x}{5x}\right)^2 \cdot 25}{\frac{1 - \cos x}{x^2}} \\ &= \frac{1 \cdot 25}{\frac{1}{2}} \\ &= 50. \end{aligned}$$

(2) 球の中心から直円柱の底面に下した垂線の長さを  $x$  ( $0 < x < 3$ ) とすると、底面の半径は、三平方の定理より

$$\sqrt{3^2 - x^2} = \sqrt{9 - x^2}.$$



したがって、直円柱の体積  $V(x)$  は

$$V(x) = \pi(9 - x^2) \cdot 2x = 2\pi(9x - x^3)$$

$$V'(x) = 2\pi(9 - 3x^2) = 6\pi(\sqrt{3} + x)(\sqrt{3} - x)$$

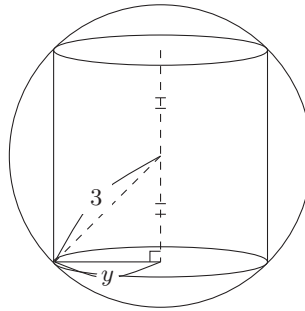
$x$	(0)		$\sqrt{3}$		(3)
$V'(x)$		+	0	-	
$V(x)$		↗		↘	

よって、増減表より、求める最大値は  $x = \sqrt{3}$  のときで  $V(\sqrt{3}) = 12\sqrt{3}\pi$ .

**別解**

底面の半径を  $y$  ( $0 < y < 3$ ) とおくと、直円柱の高さは、三平方の定理より

$$2\sqrt{3^2 - y^2} = 2\sqrt{9 - y^2}.$$



したがって、直円柱の体積  $W(y)$  は

$$W(y) = \pi y^2 \cdot 2\sqrt{9-y^2} = 2\pi\sqrt{9y^4 - y^6}.$$

$y^2 = t$  とおくと、 $0 < t < 9$  であり  $W(y) = 2\pi\sqrt{9t^2 - t^3}$ .

$f(t) = 9t^2 - t^3$  とおくと

$$f'(t) = 18t - 3t^2 = 3t(6-t)$$

$t$	(0)		6		(9)
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		↗		↘	

よって、増減表より、 $f(t)$  の最大値は  $t = 6$  のときであり、 $W(y)$  の最大値は  $y = \sqrt{6}$  のときで  $W(\sqrt{6}) = 2\pi\sqrt{f(6)} = 12\sqrt{3}\pi$ .

【参考】

$$W(y) = 2\pi\sqrt{y^4(9-y^2)}$$

ここで、 $y^2 > 0$ 、 $9 - y^2 > 0$  であるから、相加平均と相乗平均の関係により

$$\begin{aligned} \frac{y^2 + y^2 + 2(9-y^2)}{3} &\geq \sqrt[3]{y^2 \cdot y^2 \cdot 2(9-y^2)} \\ \Leftrightarrow y^4(9-y^2) &\leq \frac{6^3}{2} = 108 \end{aligned}$$

したがって、

$$W(y) \leq 2\pi \cdot \sqrt{108} = 12\sqrt{3}\pi$$

等号が成り立つのは、

$$y^2 = 2(9-y^2) \Leftrightarrow y^2 = 6$$

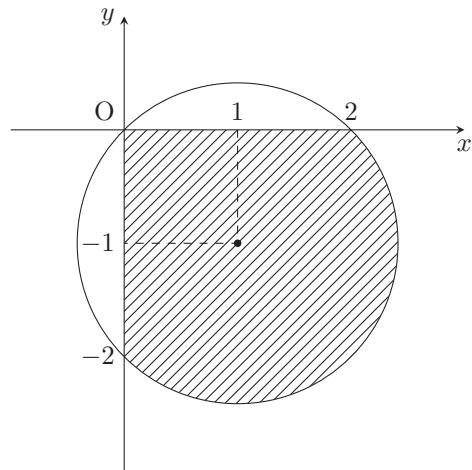
であるから、 $y = \sqrt{6}$  のときに  $W(y)$  の最大値は  $12\sqrt{3}\pi$ .

(3)

$$\begin{aligned} \int_y^x (1-|t|)dt &= \int_y^0 (1+t)dt + \int_0^x (1-t)dt \\ &= \left[ t + \frac{t^2}{2} \right]_y^0 + \left[ t - \frac{t^2}{2} \right]_0^x \\ &= -y - \frac{y^2}{2} + x - \frac{x^2}{2}. \end{aligned}$$

よって  $\int_y^x (1-|t|)dt \geq 0$  のとき、 $-y - \frac{y^2}{2} + x - \frac{x^2}{2} \geq 0$  すなわち  $(x-1)^2 + (y+1)^2 \leq 2$  である.

よって、点  $(x, y)$  の存在する部分を図示すると、次図の斜線部分となる。ただし、境界を含む。



講評

1 (標準)

(1) は空間の軌跡に関する典型問題であった。極力落としたい。 (2) は図形的な考察を適切にできるかが問われた内容であった。最低でも (2-1) をとっていききたい。

2 (やや易)

いずれも典型問題であった。 (3) がやや計算量が多くなるので、工夫して計算していききたいところである。

3 (やや易)

いずれも典型問題であった。 (2) は中線定理が利用できると計算量をぐっと減らせ、周りに差がつけられるだろう。様々な手法で解くことができる問題なので、解法の選択が重要な問題であったと言える。

4 (やや易)

いずれも典型問題であった。丁寧に計算を進め、できればどれも落としたい。

いずれも典型問題であり、点差がつく良い出題であった。他の科目にもよるが、ボーダーは 65 %前後であろう。

本解答速報の内容に関するお問合せは


**医学部専門予備校**  
**YMS**  
 heart of medicine  
 ☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>  
 東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156  
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校  
**英進館メビオ** 福岡校 ☎ 0120-192-215  
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

